



こんにちは。笠間市地域包括支援センターです。

新型コロナウイルスの新規感染者数の動向が日々気になりますね。昼夜問わず感染症に向き合う医療従事者に感謝し、自身の健康管理に注意して日々過ごしていきましょう。

今回は初めてオンライン会議を実施しました。介護保険事業所や医療機関の職員の皆様にご参加いただきました。

支援困難事例について検討しました。

今回は、「身体的不安が強く病院受診や電話連絡を繰り返すケース」です。

本人は、体の不調があると「命にかかわる事態」と思い込み、毎日のように病院に電話したり受診したりしますが、実際には治療を要する病変は見つかりません。医師から説明を受けて一度は納得しても、またすぐに不安になり、怠薬や受診相談を繰り返してしまいます。

複数の介護保険事業所や医療機関の職員等が頻回に相談対応するなどケアしてい

ますが、本人は誰の言葉にも納得しません。不要な受診とともに薬も増え、收拾がつかない状態です。

参加者からは服薬管理やサービスの増回、認知機能の精査、親族の協力者が必要、等の意見が出されました。

将来の施設入所も視野にいれながら、まずは在宅生活継続のために医療機関の連携を密にして支援を継続することになりました。

12月の検討事例の経過報告

「独居で認知症がある方が地域で暮らすための支援について」

地域のパイプ役（社会福祉協議会の地域ケアコーディネーター）や包括支援センターがサービス提供者、地域の見守り支援者と話し合いをし、介護保険のサービスと地域の方々の支援を受けながら生活を送る環境が整い、在宅生活の継続ができています。

検討事例
募集中



困難事例でお悩みでしたら、一緒に事例検討しませんか？
下記までご連絡お願いいたします。